

パネルディスカッション：討論

(出版者 / Publisher)

法政大学日本統計研究所 / JAPAN STATISTICS RESEARCH INSTITUTE, HOSEI UNIVERSITY

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

BULLETIN OF JAPAN STATISTICS RESEARCH INSTITUTE / 研究所報

(巻 / Volume)

53

(開始ページ / Start Page)

21

(終了ページ / End Page)

22

(発行年 / Year)

2021-03-31

パネルディスカッション

討論

菅：どうもありがとうございました。それでは、パネルディスカッションということで、先生方から一言お願いしたいのですが、本学会 PAPAIOS は産業連関表から供給使用表への移行にあたってどのような貢献ができるのかというお題で一言ずついただきたいと思います。北村先生、萩野先生、中村先生、八木会長という順序でお話しいただければと思います。

北村：八木先生からご説明があったように、この学会では細かい 4 層に渡る産業連関表が提供されているということで、基本的には研究者を育てていただきたいというのが一番のお願いです。もちろんそのためには裾野を広げるといいますか、論文を書く人が増えなければならぬので、院生学部生を含めてもう一度産業連関表に関心を持ってもらえるような仕組みを作っていただければ良いのではないかなと思います。統計委員会の方としても、先ほどご説明したように SUT への移行ということで、その中間報告、どのような形で進めているかということは折に付けて公表していきたいと思ひますし、フィードバックをいただくという意味でも専門家の先生たちからご意見をいただいて、我々の改革が間違つた方向にいかないように指導していただければと思います。よろしくお願ひいたします。

萩野：新入りなのでその件についてはあまり意見がないのですが、先ほど尾崎先生が仰っていた金融について、私がやってきたことを紹介させていただきます。産業連関表を国際化した国際産業連関表というものがありますが、金融分野の資金循環統計を国際化したものとして国際資金循環表や国際金融連関表という概念がありまして、これは先般の世界金融危機の後には是非整備すべきだという勧めがあつて、国際間中心に取り組んでいるところであります。私自身 1 度これらを作つてみたいと思つていたところ、アジア経済研究所で金融連関をやつてみようという声をいただいたので研究し、日米中韓を連関させた国際金融連関表というものを作つてみました。これを作ると財の場合と同じように、この国で金融破綻が起これるとどのような影響があるか等の分析も可能になるというもので、この学会への期待としては、今まで産業連関というと財やサービスだった訳ですが、金融の連関についても幅を広げていただきたく思ひます。また、若い研究者の方にもそこに関与してほしいと思つております。以上です。

中村：今日の議論の中でも何度も出ましたが、SNA と産業連関表は本来完全に整合的であればならないのですが現実にはそうではなく、それぞれの目的からある程度乖離するのはやむを得ないかもしれないです。しかし、先ほど申し上げた加工型産業などをどう取り扱うかが問題です。SNA は取引主義、つまり実際に取引されたものを記録するという方向

に純化しつつあるということなので、それでは技術構造を追いかけるのが難しいのではないかとあります。PAPAIOS は幸いなことに IO と SNA 双方の研究者が参加しているところなので、PAPAIOS の中で、そのような議論が進んでいけばと思います。

八木：日本の産業連関表について「多層的な」「4 階層の」という分かりやすい言葉を使って皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思います。大学院生が研究テーマを選ぶときにマクロの分野を選ぶとマクロの指標ばかりを見るようになるだろうし、産業組織を専攻する人は産業組織のデータばかりに関心を持つと思います。しかし、ミクロやマクロだけではなく、産業連関表というひとつの表であらわされる経済システムの大きさに捉える議論というものが経済を勉強する学生にとって非常に重要だということを示すことで、若い研究者の視野を広げることができ、研究や教育や実際の政策の議論が全体として盛り上がってくると思います。マクロ、ミクロだけではなく、産業連関というもうひとつの研究分野があることを学会として大きく示していきたいと思います。そうすると、大学院生も研究者もアジア等からの留学生も、アメリカに行って金融の勉強をするのではなくて、日本にきて地域から全国表・国際間表まで表を利用しての産業連関分析で博士論文を書こう、という流れができれば良いと思っています。